

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻

第  
1  
部

# 春季実習報告書

鷺見 幸美 (編)

2009年1月16日(月) ～ 26日(木)

実習生

アッタナヤカ・プリヤンティカ

エルヴィタ・ウィアシー

門間美智子

北村祐人

佐藤嘉ン奈

高橋直美

チャガイ・アリョーナ

堀口奈穂

武良亮

武藤佐智子

ティーチング・アシスタント

國澤里美

田中典子

古川智樹

大和祐子

## 目次

1	実習概要 .....	3
2	実習内容 .....	6
3	授業報告 .....	8

## 1 実習概要

本節では、春季実習の目的、コースの概要、実習参加者（実習生、ティーチング・アシスタント、学習者）について述べる。

春季実習の目的は、大きく2つある。第一には、参加者一人一人が、これまでの学びを実践し、自らの課題と日本語教育に取り組む意思と覚悟を明確にすることである。実践してみてもわかること、経験しなければわからないことは、山ほどある。計画通りに進まない授業、学習者からの思いがけない質問を体験してこそ、次の成長がある。また、実践してこそ味わうことのできる面白さもある。その面白さがあるからこそ、より高い目標が持てる。第二には、協働することにより、互いに学び合うことである。互いに授業を見学し、相互にコメントし合うことにより、得られるものは大きい。自分、自分の授業との違いの発見は、考えるチャンスになる。見学する側、コメントされる側だけでなく、見学される側、コメントする側にとっても、貴重な機会である。他者の授業を客観的に観察することは、自分の授業を客観的に捉えることにつながる。

この目的のもと、以下のコースを開設し、実習生10名、ティーチング・アシスタント4名で実習を行った。

期間：2009年2月16日（月）～2月26日（木）

時間：9：00～14：30

教室：名古屋大学文系総合館609（20日（金）のみ文系総合館623）

教科書：*A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vol.2*

対象者：名古屋大学留学生センター初級日本語特別プログラム在籍者

目的：大学院生として生活する上で必要な口頭コミュニケーション能力を養う。

実習生10名（うち留学生4名）

アッタナヤカ・プリヤンティカ（スリランカ）、エルヴィタ・ウィアシー（インドネシア）、門間美智子、北村祐人、佐藤嘉奈、高橋直美、チャガイ・アリョーナ（ウズベキスタン）、堀口奈穂、武良亮（中国）、武藤佐智子  
ティーチング・アシスタント4名

國澤里美、田中典子、古川智樹、大和祐子

実習生10名のうち8名は、国際言語文化研究科日本語文化専攻博士前期

課程1年の学生、2名は文学研究科博士前期課程2年の学生である<sup>1</sup>。ティーチング・アシスタントは、過去に本研究科での教育実習を経験し、その後国内外で日本語教育の経験を積んでいる国際言語文化研究科博士後期課程の学生である。

学習者の募集については、留学生センター鹿島教授にご協力いただいた。対象となる学習者にコースの説明をし、参加希望を募ってくださった結果、参加者は以下のようなになった。

登録学習者：12名（ウズベキスタン1名、グアテマラ1名、中国1名、バーレーン1名、ベトナム1名、ペルー2名、ミャンマー1名、メキシコ3名、ラオス1名）

参加学習者：10名（グアテマラ1名、中国1名、バーレーン1名、ペルー2名、ミャンマー1名、メキシコ3名、ラオス1名）

遅刻や早退もなく、9日間通して出席してくださった学習者が1名いる。また、最終日にも、6名の出席があった。みなさんとても熱心で、積極的に、協力的に授業に参加してくださった。初めて教壇に立つ実習生にとっては、非常に恵まれた環境でのスタートとなった。

（鷺見 幸美）

---

<sup>1</sup> 春季実習実施時（2009年2月）の学年。夏季実習実施時（2009年8月）、実習報告作成時（2010年2月）には、国際言語文化研究科所属の8名が博士前期課程2年に、文学研究科所属の1名が博士後期課程1年に進学している。文学研究科の1名は、博士前期課程を修了し、夏季実習には参加していない。

## 2 実習内容

本節では、春季実習の内容について、全体のスケジュール、実習生の実習内容、ティーチング・アシスタントの役割の順で述べる。

春季実習では、ティーチング・アシスタント1名と実習生2～3名が一つのチームとなり、一つの課を担当した<sup>2</sup>。チームは、実習指導教員である鷺見が、経験や各人のスケジュールの都合などを考慮して、編成した。各チームが担当する課、その目標についても、鷺見が決定した。時間割は、以下の通りである。

春季日本語コース時間割

		教室	課	目標	1限 9:00- 10:30	2限 10:45- 12:15	3限 13:00- 14:30
1	2.16 (月)	609	L. 8	オリエンテーション 体の調子を伝えることができる	鷺見	国澤	
2	2.17 (火)	609	L. 11 L. 12	アドバイスをもらうことができる	古川・門間・エルヴィタ・佐藤		
3	2.18 (水)	609	L. 13	道を聞いたり、説明したりすることができる	大和・武藤・武・高橋		
4	2.19 (木)	609	L. 14	断ったり、謝ったりすることができる	国澤・堀口・アリョーナ		
5	2.20 (金)	624	L. 17	依頼／招待をすることができる	田中・北村・プリヤンティカ		
6	2.23 (月)	609	L. 16	尊敬語や謙譲語を使ってコミュニケーションをすることができる	古川・門間・エルヴィタ・佐藤		
7	2.24 (火)	609	L. 20	簡単なディスカッションをすることができる	田中・北村・プリヤンティカ		
8	2.25 (水)	609	L. 18	店や会社に問い合わせる情報を得ることができる	大和・武藤・武・高橋		
9	2.26 (木)	609	L. 19	インタビューをすることができる	国澤・堀口・アリョーナ		

<sup>2</sup> 17日(火)のみは、11課と12の2課とした。

実習生が、自分の担当部分だけを考えて教壇に立つことのないよう、各課の学習内容の決定は、各チームに任せた。目標を実現させるために、何を学習項目とし、どのように進めるかを考え、一日の計画を立てることも実習の一環である。ティーチング・アシスタントを含めたチームでの計画立案が、この春季実習のスタートとなる。

実習生は、一日3時限の授業のうち、45分を担当することとした。春季実習を通して、90分教壇に立ったことになる。また、他の実習生、ティーチング・アシスタントの授業を積極的に見学するよう促した。

ティーチング・アシスタントには、以下の役割を担ってもらった。

- 1) 各課の授業計画立案のリード
- 2) 実習生が担当する部分以外の授業の担当
- 3) 教案作成相談
- 4) 模擬授業の指導
- 5) 授業後のコメント
- 6) 見学の受け入れ
- 7) 授業時間中のフォロー
- 8) 実習生授業のビデオ設置・撮影
- 9) 文具購入等の際の助教への連絡窓口

実習生、ティーチング・アシスタント、鷺見が登録するメーリングリストを立ち上げ、授業をしたその日のうちに、簡潔に授業報告をすることを課した。諸々の連絡も、このメーリングリストで行った。

(鷺見 幸美)

### 3 授業報告

本節では、実習生が、各課の授業報告をする。

#### 第 11・12 課 (2009 年 2 月 17 日)

担当 TA：古川智樹		担当実習生： ・ 門間美智子 ・ エルヴィタ・ウィアシー ・ 佐藤嘉奈		
学習目標 アドバイスをもらうことができる。				
学習項目： ・ ~ば、~。 / ~ば、いいですか。 ・ ~たら、~。 / ~たら、いいですか。 / ~たら、どうですか。 ・ ~ながら / ~かもしれない。				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	古川	45分	45分	アドバイスをもらう会話の導入。会話の中で、この日練習する文法項目を提示する。
	エルヴィタ	45分	45分	「アドバイスをもらう・あげる」の表現の導入と練習。
2	古川	45分	45分	「~できますか」の導入と練習
	佐藤	45分	45分	「~ながら」と「~かもしれません」の導入と練習。
3	門間	45分	45分	午前中に復習した文法項目等を使って、アドバイスをもらう練習。ロールプレイを用いて会話練習。
	古川	45分	45分	アドバイスをもらう練習。プリントを用いて、自由に会話を行う。

担当者	エルヴィタ ウィアシー
目標	「アドバイスをもらう」と「アドバイスをあげる」ときに使う表現を学ぶ。



<p><b>構成</b></p>	<p>「～ば、～。／～ば、いいですか。」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習 (Tがロールプレイを行い、活性化)</li> <li>2. 導入【どんなときに使うか：Ask&amp;Give Advice】(パワーポイント)</li> <li>3. バ形の活用練習 (パワーポイント)</li> <li>4. 文を完成する練習 (パワーポイント)</li> </ol> <p>「～たら、～。／～たら、いいですか。／～たら、どうですか。」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習 (Tがロールプレイして、活性化)</li> <li>2. 導入【どんなときに使うか：Ask&amp;Give Advice】(パワーポイント)</li> <li>3. タラ形の活用練習 (パワーポイント)</li> <li>4. 文を完成する練習 (パワーポイント)</li> </ol> <p>まとめ「Ask&amp;Give Advice のときに使われる表現」(パワーポイント)</p>
<p><b>反省</b></p>	<p>授業はほとんどパワーポイントを利用して行った。そのために、無駄な時間を大幅にカットできたが、機械の使用の不慣れとミスタイプがあったとき、すぐ訂正できなかつた。教師が考えた項目の提示の順番と学習者のレディネスと食い違った部分もあったため、その場ですぐに対応できなかつた。学習者から文法の違いについて質問があったときも、すぐに答えられなかつたが、宿題にして次回に答えた。</p>

<p><b>担当者</b></p>	<p>佐藤嘉ン奈</p>
<p><b>目標</b></p>	<p>「～ながら」と「～かもしれない」を使ってアドバイスをすることができる。</p>
<p><b>構成</b></p>	<p>「～ながら」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 (絵カードを使用)、「～ながら」を使った文を板書</li> <li>2. 練習 (絵カードを使って、学習者が「～ながら」を使用した文を作成</li> </ol> <p>「～かもしれません」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 (「～ながら」を使った文を使用して、「～かもしれません」</li> </ol>

	<p>の導入)</p> <p>2. 練習 (「～かもしれません」を使用した会話文の提示)</p> <p>3. ペア練習</p> <p>4. 発表 (ペアで作成した会話文の発表)</p>
反省	<p>「～ながら」の練習では、学習者に体を使ったゲームのような活動を採用したため、授業参加への積極性を高めることができたと思う。特にこのクラスは、比較的控えめな人たちが多かったので、よい刺激になったと思う。しかしながら、「～ながら」で得た刺激を「～かもしれません」の後半まで持ち越せなかったため、最後の練習では単調な活動になってしまった。また、このクラスは学習者のレベルに差があり、既習項目を確認することに重点を置き、難しい語彙や表現を導入しなかったため、上位レベルの学習者には物足りない活動になったかもしれない。</p>

担当者	門間美智子
目標	この日練習した文法項目を使い、アドバイスをもらうことができる。
構成	<p>①ロールプレイⅠ：相手の国へ旅行する際、観光地についてアドバイスをもらう</p> <p>②いくつかのペアに発表してもらい、フィードバックを行なう</p> <p>③ロールプレイⅡ：大阪へ行くための交通手段についてアドバイスをもらう</p> <p>④いくつかのペアに発表してもらい、フィードバックを行なう</p>
反省	<p>ロールカードは分かりやすくように作成したつもりだったが、何をすればいいのか理解できていない学習者もいた。フィードバックの際、発表の途中で訂正するのではなく、発表が終わってから訂正を行なった。メモをしながら発表を聞いたが、メモができなかったところもあり、訂正できなかったところも多かった。</p>

<b>全体の反省</b>	
<p>実際の授業の前に TA と模擬授業を行ったため、当日はかなりスムーズに授業を行うことができた。ただし、TA の担当箇所が多かったため、TA に授業の負担</p>	

をかけてしまった。

### 第 13 課 (2009 年 2 月 18 日)

担当 TA :		担当実習生 :		
大和祐子		高橋直美・武亮良・武藤佐智子		
学習目標				
道を聞いたり、行き方を説明したりできる 2つ以上の条件を比較することができる				
学習項目				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道案内に必要な語彙の学習 まっすぐ・二つ目・角・交差点・信号・曲がる・右(側)・左(側)・～のななめ</li> <li>・比較文に現れやすい形容詞 高い/安い・大きい/小さい・いい/悪い・広い/狭いなど</li> <li>・～ほうが～より</li> <li>・NとNではどちらのほうが～か</li> </ul>				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	大和	45分	0:00   0:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内の雰囲気作り</li> <li>・語彙の簡単な提示 (e.g) どのくらいかかりますか? 近い/遠い・広い/狭い等 (これからの授業中に必要となる語彙や構文を導入段階で触れる)</li> </ul>
	武	45分	0:45   1:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>道案内の際に必要な語彙、文型、文法の指導</li> <li>・選択肢有りのテストで助詞の確認 (e.g) Aが見える ～に向かって歩く</li> <li>・道案内に必要な語彙 (e.g) まっすぐ・右(側) / 左(側)</li> </ul>

				<p>～の前／の隣／の向かい／のななめ等</p> <p><u>※必要であれば…</u></p> <p>形容詞（2限目で必要な形容詞の導入） 高い／安い・大きい／小さい・広い／狭い・ いい／悪い等</p>
2	大和	4 5分	0:00   0:45	<p>リスニング・インフォメーションギャップ を用いた練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いて内容を理解する</li> <li>・インフォメーションギャップを使ったペアワーク等</li> </ul>
	高橋	4 5分	0:45   1:30	<p>1、2時間目で学習した文法項目を用いた 形容詞・比較の構文の導入 (～より…の方が安い／高い)</p>
3	武藤	9 0分	0:00   1:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を使ったペアワーク 地図を見ながら、道順を説明する 人に声をかけて道順を尋ねる</li> <li>・ロールプレイ 学習者同士のペアワークによるロール プレイ</li> </ul>

担当者	武良亮
目標	町中で他人に目的地の場所を聞くことができる。
構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前もって用意した地図（手書き）を黒板に張る</li> <li>2. 地図を見ながら、学習者に語彙を確認する (e.g) 交差点、信号、角、左、右、曲がる、向かう、まっすぐ、 渡るなど</li> <li>3. 確認方法は、教師は語彙を提示し、学習者に地図の前に来て地図</li> </ol>

	<p>の上で指差し、或いは動作してもらって、他の学習者に見せる誤りがあれば、教師が訂正する</p> <p><b>4. 地図を見ながら、文型を導入する</b></p> <p>①～に向かってまっすぐ行ってください  ②～の角を左/右に曲がってください  ③～信号を渡ってください。</p> <p>・導入方法は、教師は文型を提示し、地図の上で、指で作動して見せる</p> <p><b>5. 文型ドリル練習</b></p> <p>練習はTPRを用いて行う  教室の机などを使って簡単な町を作って、学習者に黒板の前に来てもらって、教師の指示に従って動作する。教師がフィードバックした</p> <p><b>6. 町中で場所を聞く時に用いる格助詞の確認</b></p> <p>確認は穴埋めの紙テストで行う  まず、学習者に自作助詞穴埋めテストを配る  次に、学習者一人ずつ、順番で答えを言わせる  訂正すべき点は、教師がフィードバックを行う</p>
<p><b>反省</b></p>	<p>1. 初めての授業なので、すこし緊張があったせいか、言語行動や非言語行動などにおいて、たとえば、手が頭を触ったり、間投詞が多用したりする改善すべき点が多いと思われる。</p> <p>2. 授業の時間分配に工夫が必要だと思われる。最後に授業時間が約10分間余ってしまい、仕方がなく、格助詞の確認を入れた。文型のドリル練習のところで、もっと多くの形で、もっと多くの時間をかけてやれば良いと思われる。</p> <p>3. 授業の仕方が楽しいと思われる。地図で語彙、文型を提示したり、TPRで練習したりすることは学習者にとって楽しかった。</p>

<p><b>担当者</b></p>	<p>武藤佐智子</p>
-------------------	--------------

目標	1、2時間目で復習した学習内容を実際に使ってみる
構成	<p>①前の時間で学習した語彙を確認する  (e.g) 本屋は駅の近くにあります。  真っ直ぐ進むと右側に銀行があります。  映画館は二つ目の角を左に曲がるとあります。</p> <p>②学習者に個人カードを配る  ※学習者が12名なので6パターンのカードを作成(地図つき)  ペアを探して、ロールプレイに挑む</p> <p>例1  A:あなたは今から友達の誕生日パーティーに行きます。  友達にケーキと花を買いたいと思います。Bさんはお店の場所を知っています。Bさんに行き方を聞いてみましょう。  B:あなたはケーキ屋さんと花屋さんの場所を知っています。Aさんに分かるように説明してください。</p> <p>例2  A:あなたはケーキを買いにケーキ屋さんに行きます。お金は1000円しか持っていません。  Bさんにケーキ屋の場所を聞き、1000円で買えるケーキを選んでください。  B:あなたはケーキ屋さんの場所を知っています。1000円で買えるケーキを勧めてください。</p> <p>③ロールプレイの発表  他の学習者の前で、ロールプレイを行う</p>
反省	AとBを比較して、自分の条件に合ったほうを選択するということと、地図を基に、その道順を説明するという2つの目的・行動があるロールプレイを行った。2つの目的・行動をするというロールプレイの設定を、学習者が十分理解できていなかったように思われる。

	また、1組の学習者がロールプレイを行っている場合、その他の学習者達の興味をひきつけることができなかった。特にロールプレイが終わったペアは、以降のペアが行うロールプレイに集中しておらず、単調になりがちであった。
--	--

<b>全体の反省</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に教師の指示が不明瞭な点が多く、学習者の混乱を招いた</li> <li>・ 道順を尋ねるタスクで用いた地図が、あまりにも情報を簡略化してしまったため、単調になりがちになった 地図上にある情報量を多様にしてもよかったように思う</li> <li>・ 学習者同士の組み合わせが常に同じで、クラス全体の交流が少なかったように思う</li> </ul>	

#### 第14課 (2009年2月19日)

担当 TA：国沢里美		担当実習生：チャガイ・アリョーナ、堀口奈穂		
<b>学習目標</b> 断ったり、謝ったりすることができる。				
<b>学習項目</b> 「～んです」「すみません、まだ～ていないんです」「～てもいいでしょうか」 「～することになっている」「～することにして」「ことにする／ことにした」 「つもり」 「～てしまいました」「～ちゃいました」「はずです」				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	国沢里美	90分	90分	謝るときの会話の流れを確認する。 謝るときの文型 ・「～んです」 ・「すみません、まだ～ていないんです」 ・「～てもいいでしょうか」
2	チャガイ	60分	60分	断るときの文型を学ぶ。

	イ・アリョ ーナ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～することになっている」</li> <li>・「～ことにしている」</li> <li>・「ことにする／ことにした」</li> <li>・「つもり」</li> </ul>
	堀口奈穂	30分	30分	謝るときの文型を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「～てしまいました」</li> <li>・「～ちゃいました」</li> <li>・「はずです」</li> </ul>
3	堀口奈穂	60分	60分	謝るときの会話をロールプレイで学ぶ。
	チャガイ イ・アリョ ーナ	30分	30分	謝るときの会話をロールプレイ・ゲームで学ぶ。

担当者	チャガイ・アリョーナ
目標	断るときの文型を学び、後半の授業の運用練習に結びつける。
構成	<p>【2時間目の前半（60分）】</p> <p>1. 「V ことになっている」の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予め作っておいたスケジュールを学習者に見せながら、「V ことになっている」の理解を促す。</li> <li>・ 「辞書形→辞書形+ことになっています」の口慣らし</li> <li>・ 「V ことになっているんです」を使った会話導入</li> </ul> <p>T: 堀口さん、月曜日一緒に美術館へ行きませんか。</p> <p>H: 月曜日ですか。月曜日は友達と合う<u>ことになっているんです</u>。</p> <p>T: ああ、そうですか。残念です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習者に自分のスケジュール表を作らせ、上記のような会話をさせる。</li> </ul> <p>2. 「V ことにしている」の導入</p>



	<p>・以下のような例をたくさん出し、学習者の理解を促す。  例：病気にならないように、毎日朝ごはんを食べる<u>ことにしています</u>。</p> <p>3. 「ことにする/ことにした」の導入</p> <p>・以下のような会話で「ことにします」の理解を促す。  T：英語が上手になりたいです。どうしたらいいですか。  S：英語の本をたくさん読んだらどうですか。  T：じゃ、明日から英語の本をたくさん読む<u>ことにします</u>。</p> <p>・レストランで注文をさせたり、旅行の計画を立てさせたりして、「ことにします」の運用練習をする。  例：うどんにします。  例：京都（奈良、東京）へ行くことにします。  例：バス（電車、新幹線）で行くことにします。</p> <p>・最後に旅行の計画を報告してもらい、「～ことにしました」の練習を行う。</p> <p>4. 「つもりです」の導入</p> <p>・「つもりです」を使いながら、自分の旅行の計画について話す。  例：お土産をたくさん買うつもりです。/写真を撮るつもりです。</p> <p>・学習者に「つもりです」を使った例文を作らせる。  例：私は去年2回も国へ帰ったので、今年は帰らないつもりです。/来月車を買うつもりです。</p>
<p><b>反省</b></p>	<p>学習項目を詰め過ぎってしまって、予定した全部の項目に触れることができなかった。全体の授業を駆け足で走ってしまい、全ての項目を十分に理解できなかった学習者もいたと思う。</p> <p>また、「ことになっているんです」の練習で、学習者各自のスケジュールを作ってもらい、学習者同士で会話を作ってもらったが、以下のような不自然な会話もあった。</p> <p>A：Bさん、水曜日一緒に映画館へ行きませんか。  B：水曜日ですか。水曜日は<u>食器を洗うことになっているんです</u>。  A：ああ、そうですか。残念です。</p>

	このようなことを予測しなかったので、その時に訂正はしなかった。 このような不自然な用法を避けるために、どのようなタスクを作ったらいいのか考える必要がある。
--	--

担当者	堀口奈穂
目標	理由を述べて断ったり謝ったりすることが出来る。
構成	<p><b>【2時間目後半（30分）】</b></p> <p>1. 「～はずです」の導入</p> <p>2時間目前半に学習した「つもりです」と合わせて、人から聞いた情報を第三者に伝達する用法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師同士で「つもり」「はずです」を使ったモデル会話を見せる。</li> </ul> <p>堀口「アリョーナさん、明日は何をしますか？」 アリョ「明日は映画を見に行くつもりです。」 堀口「そうですか。」 国沢「堀口さん、アリョーナさんは明日どこに行きますか？」 堀口「アリョーナさんは明日映画に行くはずです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はずです」の説明 モデル会話を板書して説明。</li> </ul> <p>2. 「はずです」のパターン練習</p> <p>動詞を書いたカードを見せ、動詞の辞書形に「はずです」を付ける練習</p> <p>3. 「はずです」の会話練習</p> <p>教師が提示したモデル会話を使い、「はずです」を使う練習。</p> <p>4. 「～ないはずです」の会話練習</p> <p>教師が提示したモデル会話を使い、「～ないはずです」を使う練習。</p> <p><b>【3時間目前半（60分）】</b></p>

	<p>1. 1・2時間目で学習した文型や表現を使ってロールプレイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでロールプレイ練習</li> </ul> <p>「友達に借りたCDを割ってしまった。」という状況を書いたカードを配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィードバック</li> </ul> <p>先ほどの会話をもう一度してもらい、間違いがないか確認する。</p> <p>2. 文型「～てしまいました」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「～てしまいました」の説明</li> <li>・絵カードを使って「～てしまいました」の代入練習</li> <li>・パン、コーヒーなどの飲食物の絵カードを使って練習。</li> </ul> <p>3. 文型「ちゃいました／～じゃいました」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちゃいました／～じゃいました」の説明</li> <li>・パン、コーヒーなどの飲食物の絵カードを使って練習。</li> </ul> <p>4. ロールプレイ練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでロールプレイの練習</li> </ul> <p>「友達に借りた本をコーヒーで汚した。」という状況を書いたカードを配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィードバック</li> </ul>
<p>反省</p>	<p>1回目の授業ということもあり、1つの活動にどのくらい時間がかかるのか分からないまま、教案を立ててしまった。その結果、実際の授業では予定していた時間通りには進まず、時間が足りなくなってしまった。例えば、考えながら板書を何度もしていたために板書の時間が長くなり、学習者を待たせる時間が多くなってしまった。その他にも、文型項目の絞込みをあまり行わず、テキストに載っているものをほとんど取り上げたため、謝る・断る表現を学習内容としたものの、実際には謝るロールプレイの中に「断る」で学んだ文型が生かされないという問題が起きた。</p> <p>授業内容以外の反省としては、学習者の発話が少なく、教師の発話が多くなってしまったことが挙げられる。文型の説明以外でも、</p>

	学習者の発話を待たずに自分で解答を言ってしまう部分が多くあり、また、学習者に発話を求めても、学習者が予想外の発話をした際に上手く修正できない場面もあった。
--	---

<b>担当者</b>	チャガイ・アリョーナ
<b>目標</b>	謝るときの会話をロールプレイやゲームでできる。
<b>構成</b>	<p>【2時間目の後半（30分）】</p> <p>1. 謝るとき、断るときのロールプレイ</p> <p>2. 上手に謝った、相手のサインをもらうゲーム</p>
<b>反省</b>	<p>学習者は全体的にロールプレイをできたと言えるが、その日に習った「謝り」や「断り」の表現を間違えたり、使わなかったりしたこともあった。</p> <p>ゲームは学習者が楽しそうにやっていて、成功したと言える。</p>

<b>全体の反省</b>	
●	指導した文型が多い反面、ロールプレイで練習する場面では、一部の文型しか使われず、もっと指導項目を絞る必要があった。
●	断り表現と謝り表現両方を指導項目にしたため、1日全体の目標が何であるかが分かりづらくなった。

## 第16課（2009年2月23日）

<b>担当 TA</b> ：古川智樹	<b>担当実習生</b> ：
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 門間美智子</li> <li>・ エルヴィタ・ウィアシー</li> <li>・ 佐藤嘉ン奈</li> </ul>
<b>学習目標</b> ：	
尊敬語や謙讓語を使ってコミュニケーションをすることができる	
<b>学習項目</b> ：	
尊敬語：「おVになります」、「おVください」、Irregular	
謙讓語：「おVする」、Irregular	

尊敬語と謙讓語を用いた自己紹介練習、会話練習 形式の変換よりも「だれに」、「どんなときに」というような社会的な概念の理解を重視する。				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	門間	45分	37分 (開始5分遅れ)	尊敬語：「おVになります」の導入、ドリル練習、会話練習。 「おVください」の導入、ドリル練習。
	古川 (TA)	45分	48分	尊敬語：不規則に変化する動詞の導入、ドリル練習。
2	エルヴィタ	45分	45分	<謙讓語> 尊敬語と謙讓語の違いの説明 不規則に変化する謙讓語の導入、ドリル練習、会話練習
	古川 (TA)	45分	45分	「おVする」の導入、ドリル練習、会話練習
3	佐藤	45分	56分	<実践練習> 謙讓語を使って自己紹介をすることができる。 自己紹介用のプリントを使って、ペアで練習、発表。
	古川 (TA)	45分	45分	1～3時間目で勉強したことを使って、自己紹介をする。 学習者と教師（実習生、見学者）がペアを組み、練習。

担当者	門間美智子
目標	尊敬語を使ってコミュニケーションができる
構成	①1 コマ目に使う動詞の確認 ②「おVになります」の導入 ③文型の説明と変換練習

	<p>④「おVになります」を用いて会話練習</p> <p>⑤「おVください」の導入</p> <p>⑥変換練習</p>
反省	<p>「おVになります」の会話練習の後、項目のいくつかだけをピックアップして学生に答えてもらった。全ての項目について聞いていると、予定時間も越えるし、くどいのではないかと考えたためそうした。ビデオを見て振り返ると、物足りないような感じがしたので、予定時間を延長しても、全ての項目を聞いてもよかったかもしれない。</p> <p>「おVください」は聞いて理解できる程度を目指したため、機械的な練習に留まった。1日の活動内容の中でも、「おVください」を使ったのはこの時間だけで、ここでわざわざ取り上げる必要はなかったのではないかと感じる。</p>

担当者	エルヴィタ ウィアシー
目標	謙譲語を使ってコミュニケーションをすることができる
構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尊敬語と謙譲語の違いの説明</li> <li>・ 不規則に変化する謙譲語の導入、ドリル練習、会話練習</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 謙譲語の導入（スキットで謙譲語の概念を復習する）</li> <li>2. 謙譲語の変換 Irregular → Regular（パワーポイント）</li> <li>3. 応用練習（相手と自分の立場を意識し、会話の表現を変える。パワーポイントで提示）。</li> </ol>
反省	<p>謙譲語の概念はスキットで導入したが、うまく行かなかった。形式の活用練習のときに、レギュラーとイレギュラーの変換はできたが、まだ覚えていないため、思ったより時間がかかった。応用練習の時間に短い会話を練習したが、練習2は謙譲語と尊敬語が両方入っている練習のため、学習者はどの文で謙譲語を使うべきか、どの文で尊敬語を使うべきか、困難を感じているようだった。ようやくできるようになったが、時間がかかった。</p>

担当者	佐藤嘉ン奈
-----	-------

<p><b>目標</b></p>	<p>謙讓語と尊敬語を使って自己紹介をすることができる。 謙讓語と尊敬語を使ったコミュニケーション練習。</p>
<p><b>構成</b></p>	<p>謙讓語を用いた自己紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入（自己紹介を自由に行ってもらい、どれだけ謙讓語と尊敬語が使われているかを確認し、その後謙讓語を使用した自己紹介文を提示。）</li> <li>2. 書く練習（例文が書かれたワークシートを配布し、内容確認。謙讓語を使用して改めて自己紹介文を作成。）</li> <li>3. 発表（各自作成した自己紹介文を発表）</li> <li>4. フィードバック</li> </ol> <p>尊敬語と謙讓語を用いたペアワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークシートを使用した会話文作成の説明</li> <li>2. 書く練習（ペアで協力して尊敬語と謙讓語を用いた会話文を作成）</li> <li>3. 各ペアで発表</li> <li>4. フィードバック</li> </ol>
<p><b>反省</b></p>	<p>3限目では尊敬語と謙讓語を使ったコミュニケーションができるように自己紹介を使用した活動を行ったが、それと平行して書く練習を行ったため、1限目と2限目で勉強したことを改めて確認することができ、学習者から困惑の表情がなくなったように思われる。話すという活動の中に書く練習を入れるのは効果的だと思う。しかしながら、今回の活動では、学習者のレベルを考慮して比較的簡単な項目を採用し、日常的な出てきやすさと言いやすさから判断した項目を採用しなかったため、達成度が低くなってしまった。</p>

**全体の反省**

全体的にいろいろな工夫をこらした授業を展開することができた。その意味で学習者は楽しく参加できたのではないかと思われる。ただ、学習者のレベルにばらつきがあったため、授業で採用する学習項目の選択が難しく、スムーズに運べると考えていた導入が困難を期すこともあった。また、想定していた以外の疑問を学習者から投げかけられることもあり、その都度柔軟に対応することで解決した。

## 第17課 (2009年2月20日)

担当 TA：田中典子		担当実習生：北村 祐人 アッタナヤカ・プリヤンティカ		
学習目標 依頼／招待することができる				
学習項目 提案、依頼、招待表現				
	担当	予定時間	実際の時間	内容
1	田中	90分	90分	<b>提案</b> 自分のアイデアを人に伝えて、賛同を得る。(友達同士のブレインストーミング会話)
2	北村	90分	90分	<b>依頼</b> 役割分担を決めたのち、実際にそれを実施するために必要な日本語会話ができるようになる
3	田中	45分	45分	疑問詞を使って現在話している部分の明確化を求める
	プリヤンティカ	45分	45分	読書会での成果を友達、先生方に聞きに来てもらうための招待の会話表現

担当者	北村 祐人
目標	友達を勉強会に招待することができる 構文 「～てください」 「～くれませんか」 「～していただけませんか」
構成	1. ブレインストーミング (勉強会には何を準備する必要があ



	<p>るのか)</p> <p>2. モデル会話 (勉強会に勧誘する)</p> <p>3. ドリル練習 「～てください」 「～てくれませんか」 「～していただけませんか」</p> <p>4. 応用練習 授業の前半でブレインストーミングを行い、応用練習の題材を与えられたものではなく自分たちで生み出したものにしようとした。だが、学習者のレベルを考慮し、モデル会話で応用練習の流れを大まかに把握させ、ドリル練習で形式を認識させた。</p>
反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミングは応用練習につなげる意図があったものの、実現には至らなかった。ブレインストーミングは、教室活動にこちらが提示したものだけではなく自分たちで考えた内容を取り込ませる意図で取り入れた。また時間もかなり割いた。だが、ブレインストーミングを前提として教室活動を組み立てたため、応用練習との関わりが弱くなってしまった。もっと活動の内容を検討する必要があった。</li> <li>・ドリル練習では文型の正確さの向上を図ったが、フォローが不十分で応用練習での目的が達成されなかった。ドリル練習が不十分だっただけでなく、教師のフィードバック、またドリル練習と応用練習をつなぐ練習をさらに加えるべきであった。</li> <li>・文型の理解が不十分であった。そのため、学習者が練習を行う際に支障をきたした。</li> </ul> <p>授業の構成に無理があっただけでなく、進行にも無理があり学習者の理解を確認しないまま進行してしまった。また学習者の発話をうまく活用できず、授業全体に「厚み」がなかった。その2つの理由より時間が足りなくなった。計画と実際の進行の関係を考慮しつつ、計画を練る必要があった。</p>

担当者	アッタナヤカ・プリヤンティカ
目標	目上の人を招待することができる。 構文

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょっとよろしいでしょか</li> <li>・ ~んですが、きていただけなでしょか</li> <li>・ ご都合はいかがでしょか</li> <li>・ せっかく~のに すみません</li> </ul>
<b>構成</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前の授業で学習した、勉強会に友達の招待するための文型、「~てください」、「~てくれませんか」、「~ていただけませんか」の復習を行い、語彙を洗い出した（普通体）。</li> <li>2. 先生を招待する場合のどう招待すればよいか、どこの言葉がどう変えれば先生を礼儀正しく招待することができるのか、について学習者に考える時間を与えた。その際に、先の授業で、勉強会に友達を紹介するために使用したモデル会話を使用した。</li> <li>3. 丁寧体の導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょっとよろしいでしょか</li> <li>・ ~んですが、きていただけなでしょか</li> <li>・ ご都合はいかがでしょか</li> <li>・ せっかく~のに すみません</li> </ul> </li> <li>4. 穴埋め式のモデル会話を提示し、完成させ、ペアでの練習をさせた。</li> <li>5. 4人組で練習（モデル会話を使用）</li> <li>6. 実際に実習の見学にいらっしゃっていた先生を招待させた。</li> </ol>
<b>反省</b>	<p>緊張しており、文型の説明などの際に板書していなかった。今後は、分かりやすく説明するために板書は非常に必要と思う。また、話すスピードが速かったが初級クラスであり、学習者の日本語を意識してゆっくり話すべきだったと反省している。</p>

<b>全体の反省</b>
<p>板書計画やティーチャートークが不十分だったため、学習者の理解に結びつかない場面がたびたび見られた。今後は学習者に対し、よりいっそう配慮を持った授業を行うようにしたい。また、計画の不十分さが授業の進行や展開を妨げた。今後は十分に授業中のイメージをした上で授業計画を練ることとしたい。また授業においてもその課、コース全体の目標など一貫したイメージのもとに行動をしていくようにしたい。</p>

## 第 18 課 (2009 年 2 月 25 日)

<b>担当 TA :</b> 大和祐子		<b>担当実習生 :</b> 高橋直美・武亮良・武藤佐智子		
<b>学習目標</b> 友達と一緒に旅行の計画を立てる 旅行のための情報を得る・お店での対応を学習する				
<b>学習項目</b> ・～はどうですか ・～とはどういう意味ですか ・～はなんと読むんですか ・～らしいです				
	<b>担当</b>	<b>予 定 時 間</b>	<b>実際の時間</b>	<b>内容</b>
1	武	4 5 分	0:00   0:45	・ 友達のスケジュールを聞く ・ 自分の都合も言え、スケジュールを調整できるようになる
	大和	4 5 分	0:45   1:30	旅行代理店で旅行先の候補地の情報を収集する その時にわからない言葉があったとき、尋ねることができるようになる (e.g) 深夜料金込み・早割・連泊可能など  ・ 分からない単語や情報について尋ねることができるようになる (文型：～という意味ですか？これはなんと読むんですか？)
2	高橋	9 0 分	0:00   1:30	人から得た情報を伝えることができる (文型：～らしい) 旅行のための情報を旅行代理店に取りに行く 見学者を旅行代理店に見立てたロールプレイ

				北海道・東京・京都・奈良・大阪・広島・九州・沖縄 以上の都市について（交通手段・移動時間・料金・観光名所・自由質問）を訪ねる
3	武藤	4 5分	0:00   0:55	2時間目のロールプレイで得た情報に基づいて友達と計画を立てる （～らしい）を使って情報を他者に伝達する  ペアワーク：ペアと旅行先を吟味し、旅行の計画を練る （前半は少し長めに行う）
	大和	0:45   1:30	0:55   1:30	前半にたてた旅行の計画を発表する

担当者	武 良亮
目標	友達のスケジュールを聞いて日程を決めることができる。
構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習者に今日の学習内容について説明する</li> <li>2. 学習者のレベルを把握するために、学習者にタスク（友達のスケジュールを聞いて、約束するという設定である）を与えて、ペアでやってもらう</li> <li>3. 一組だけに発表してもらう 同時に、教師が発表に出てきた文型を黒板にまとめる</li> <li>4. 文型を導入する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先ほどまとめた文型（訂正があり）を説明する</li> <li>・ 足りない文型を補充して、説明する (e.g) 「何時にどこで待ち合わせしますか」 など</li> </ul> </li> </ol>

	<p>5. 文型をドリル練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主に教師と学習者とペア練習である。</li> </ul> <p>(e.g) 教師：学習者 A さん</p> <p>私は A さんと一緒にテニスに行きたいです、A さんはいつが暇ですか。</p> <p>A さん：明日は大丈夫です。</p> <p>6. 学習者ペア練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二人ずつペアに、タスク（友達のスケジュールを聞いて、約束するという設定である）を与えて、練習させる</li> </ul> <p>7. ペアごとに発表してもらう</p> <p>8. 教師がフィードバックをする</p>
<p>反省</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業の流れを振り返って見ると、学習者のレベルを把握するために、授業の初め、学習者にタスクを与えて演習をしてもらった（構成 2）。しかし、結局、文型は学習者のレベルにしたがって調整できず、前もって作成した教案とおりに導入した。そのため、経験の浅い私には構成 2 の必要性があるかと疑問があった。構成 2 があったため、文型のドリル練習の時間が少なくなった。構成 2 を無くし、文型のドリル練習の時間をもっと長くしたらいいなと思った。ただし、全体の流れとしては、文型導入、ペア練習、発表、フィードバックとなっており、学習者につまらない感じをさせないと思われ、よいと思われる。</li> <li>文型の説明がちゃんとできたかどうか、自信がない。今後、日本語で文型を分かりやすく説明することができるよう、前もって準備をしたりする工夫が必要だと思われる。</li> <li>教師の言語行動においても、非言語行動においても、一回目の授業よりややよくなったと思われる。</li> <li>学習文法項目が多い。 たとえば、「旅行のための情報を得る・お店での対応を学習する」授業において、導入した文法が 8 項目もある。多くて各文法項</li> </ol>

	<p>目について詳しく説明することができなかった上、教え忘れた項目もあった。</p> <p>5. 授業の流れについては、導入の部分の時間が長くて、生徒たちの練習時間が短くなったため、文法項目のドリル練習が足りない気がし、生徒達の中で練習できなかった人もいた。</p>
--	---

<b>担当者</b>	高橋直美
<b>目標</b>	<p>必要な情報を収集する</p> <p>旅行代理店をまわって観光地の情報を聞く</p> <p>収集した情報を友達に伝える</p> <p>伝聞「～らしいです」の用法の理解・練習</p>
<b>構成</b>	<p>1. 活動の前準備・ワークシート使用のための練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今から Activity をします。</li> <li>・ 内容を今から説明しますか、良く聞いてください。</li> <li>・ みなさんはもうすぐ冬休みです。今日本で旅行しようと思っていますが、どこへ行くかまだ決めていません。</li> <li>・ それで、今から旅行店へ行って、どこへ行くかいろいろ話を聞いてください</li> <li>・ 後でメモを整理する時間をあげますから、話しているときは目もでもいいです</li> <li>・ 何を聞いたらいいか分かりますか</li> <li>・ どうやって質問すればいいか分かりますか。</li> <li>・ ワークシート 1～6</li> <li>・ 7は1～6以外に初稿社の人から教えてくれたこと、その中で分かったことを書いてください。</li> <li>・ 意味が分からなかったときは、「～てどういう意味ですか」で聞いてください</li> </ul> <p>2. 活動（模擬旅行店に旅行プランを聞く）</p> <p>3. ～らしいです</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人から聞いてわかりました。それを誰かに話します。</li> </ul>
<b>反省</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間目の練習「～てどういう意味ですか」を使っての聞き返しの項目が落ちた</li> <li>・ 伝聞の用法説明が不適切で、かつ、途中で軌道修正しなかったため、(特に「ルイスさんによると」の練習部分を誤魔化してしまった) 最後まで学習者が「(～によると) ～らしいです」を使った表現にゆいての理解を妨げることとなった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会話でもの勝手な変更（1回目と2回目に使用したことばが違った）</li> <li>・ 「ええ」「じゃ」「～、はい」を常に使っている</li> <li>・ 地声が低いので、声域を一定に保たないと自分でも聞きづらい。</li> <li>・ 生徒の回答を聞いて、それが質問に対して正しく答えられているかいないか、当事者に伝わりにくい受け答えをしている。</li> </ul>
--	---

担当者	武藤佐智子
目標	2時間目で得た情報に基づいて友達と計画を立てる
構成	<p><b>1. 「～らしい」の復習</b></p> <p>他の人から、あるいはTVなどからの情報をいうときは「～らしい」を使うことを示す</p> <p>情報は身近な内容を選択</p> <p>得た情報を第三者（教師と当事者以外）に述べさせる  (e.g) ルイスさんは東京に行ったことがあります。  ↓  ルイスさんは東京に行ったことがあるらしいです。（伝聞）</p> <p><b>2. 情報を伝えあう</b></p> <p>2時間目で得た情報を「～らしい」を使って伝える</p> <p>特に観光名所の特徴などを学生間から聞き出す</p> <p>※料金・移動時間・移動手段についても聞いて必要であればホワイトボードの板書する  （でもここでは～らしいの文型は出てこないと予想）</p> <p>ペアを決めて旅行の計画を立てる</p> <p>グループごとに旅行のプランをすり合わせる  （価格や時間、行きたい場所も含めて）</p>
反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「～らしい」の練習の甘さ  →もっと学習者からいろいろな情報を引き出して「～らしい」の練習を増やすべきだった</li> </ul>

	<p>→「～らしい」が自分自身のことについては言えず、第三者からの情報を自分が言うときに使うということを意識させるための場面が不十分だった</p> <p>→第三者の情報を得るときに「～らしい」を使うが、恒常的、常識的なことに関しては「～らしい」を使うと不自然になることをコントロールできなかった</p> <p>Ex)雪は冷たいらしいです。北海道は雪が降るらしいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間目で得た情報を教え合うときに、今回の目標である「～らしい」が出るようにコントロールできていなかった</li> <li>・情報が多く、提示が複雑になり学習者の混乱を招いた</li> <li>・学習者の発話よりも自分の発話のほうが断然多かった</li> </ul>
--	---

<b>全体の反省</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行の計画をたてる段階の行動（友人を誘う→旅行の都合を聞く→旅行の情報を集める→友だちと情報を共有する→行き先を決定する）を1日の授業の中で行った</li> </ul> <p>しかし、全体的にその流れが捉えにくかったように思う</p> <p>その点で、旅行計画の段階をもっと意識させるような発話、流れをつくるべきであったと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の発話が多い授業と、少ない授業があり、学習者の集中力もばらばらであったように思う。</li> <li>・指示が少なかったせいか、授業の活動をどのように取り組めばいいか理解できていない学習者もいた</li> </ul>	

### 第19課（2009年2月26日）

担当 TA：国沢里美	担当実習生：チャガイ・アリョーナ、堀口奈穂
<b>学習目標</b>	
インタビューをすることができる。	
<b>学習項目</b>	
インタビューの方法（インタビューの流れ、断られた時の対応方法）	



	担当	予定 時間	実際の時間	内容
1	国沢里美	90分	90分	インタビューの方法(インタビューの流れ)を確認する。 断られたときの会話を練習する。
2	チャガイ・アリョーナ	90分	90分	インタビューのテーマを決める。 インタビューの内容、順番を決める。 インタビューのグループで口頭練習。
3	堀口奈穂	90分	90分	インタビューの口頭練習(2時間目の続き)。 キャンパスでインタビューを行う。 インタビュー後に、教室で発表をする。

担当者	チャガイ・アリョーナ
目標	インタビューをするためのテーマとその質問を考え、考えたテーマについてインタビューができる
構成	<p>1. 学習者に課題を説明(午後の授業で、外に行って日本人にインタビューをする)</p> <p>2. 「不思議」という言葉の意味の説明 「日本に来て不思議に思ったこと」についてインタビューすることを学習者に導入し、日本に来て不思議に思ったことを学習者から聞き出す。</p> <p>3. テーマを具体化させるために、いくつかの例を提示する。</p> <p>4. 学習者をペアに分け、自分のテーマと質問を考えさせる。 「日本人に聞きたいこと」のプリントを配布し、テーマと質問を記入させる</p>

	<p>5. 質問の順番を決めさせ、確認する。</p> <p>6. インタビューの練習を学習者同士で行う。</p>
反省	<p>教案が頭の中にしっかり入っていなかったため、全体の構成の流れが崩れてしまった。そのため、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者は授業中何をすべきか、戸惑った様子が見られた。</li> <li>・予定した時間をオーバーしてしまった。</li> </ul>

担当者	堀口奈穂
目標	実際にインタビューをすることができる。
構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ペアでインタビューの口頭練習(2時間目の続き)</li> <li>2. 日本人にインタビューをする前の説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューは、院生室にいる日本人2人、外(図書館)にいる日本人2人。</li> <li>・学生は最低2回インタビューをすること。</li> <li>・1人がインタビューしている間、もう一人はメモを取ること。</li> <li>・時間までに教室に戻ってくること。</li> <li>・インタビューをした内容を授業の最後にすること。</li> </ul> </li> <li>3. 教室を出て日本人にインタビューをする。(教師は観察及び補佐)</li> <li>4. ペアごとに、インタビューの内容をまとめる。</li> <li>5. ペアで発表の口頭練習</li> <li>6. 発表の方法をもう一度説明。</li> <li>7. ペアごとに発表。 代表者が1人前に出て、インタビューで聞いてきたことを報告する。</li> </ol>

	他の学習者はその発表を聞いて、その後に質疑応答。
反省	文型練習が主だった前回の授業とは違い、今回はインタビューの実践だったので、インタビュー前の説明や発表の説明などの指示が主な活動だった。インタビューが出来ることを目標にしたので、最後は本当に日本人にインタビューをしたのだが、実際に日本人にインタビューをするのは難しく、学習者が日本人に声をかけるのを躊躇ったり、インタビューに応じてくれた日本人の言葉が早口で、学習者が聞き取れずに何度も聞き返し、日本人が困ってしまう場面が見られるなど、実践練習の難しさを感じた。

<b>全体の反省</b>	
インタビューのテーマを学習者に自由に決めてもらったが、日本人が答えにくい質問を考えてしまったため、インタビューをしても回答者が困ってしまい、思うような回答を得られない場面があった。ある程度テーマを提示しても良かったのではないかと思う。	

## 第20課 (2009年2月24日)

<b>担当 TA</b> : 田中典子		<b>担当実習生</b> : 北村 祐人 アッタナヤカ・プリヤンティカ		
<b>学習目標</b> 簡単なディスカッションをすることができる				
<b>学習項目</b> 自分の意見を述べる。 相手の意見を聞く 反論をすることができる				
	<b>担当</b>	<b>予定時間</b>	<b>実際の時間</b>	<b>内容</b>
1	プリヤンティカ	60分	90分	自国と日本の食べ物の違いについて話す。 ・日本の食べ物、乗り物などについての感想を述べる

				・自分の意見を述べる
	田中	30分	—	日本に来る前と来てから印象の変化（違い）について述べる。 (1時間目での学習項目の定着) ↓
2	田中	—	45分	
	北村	90文	45分	自分の国の食事のマナーについて紹介し合う。 ・自分の国のマナーについて話す ・相手の国のマナーについて聞く ・相手の国のマナーについて話す
3	田中	45分	45分	互いの生活習慣を話した後に、CO2を減らすための方策を考える。 ・相手の意見を求める ・反論する
	北村 プリヤンティカ	45分	45分	無人島に行かなければならないことになったとき、何を持っていくかを決める。(ペアワーク) ・自分が持っていくものを3つ述べる ・その選択理由を述べる ・相手の意見に反論する

担当者	アッタナヤカ・プリヤンティカ
目標	はっきり理由をいって、自分の意見を言うことができる。 相手を理解し、自分の意見が伝えることができる。

	<p>構文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ~ですが~です</li> <li>・ ~より~のほうが~です</li> <li>・ なぜなら</li> <li>・ ~と이었습니다</li> <li>・ ~とっていました</li> </ul>
<p>構成</p>	<p>1・導入</p> <p>「日本の食べ物」、好き嫌いカードを使って確認し、それぞれについて自分の意見を述べる。</p> <p>2. 「~ですが~です。」の文型の練習</p> <p>「日本ではご飯を食べるときに味噌汁を飲みます。皆さんは、味噌汁を飲みますか？それともスープを飲みますか。」</p> <p>3. 「~より~のほうが~です。」の文型の導入</p> <p>日本では魚を生で食べるが自国ではどのように食べるかを確認した後、「生魚のほうがよりフライ魚のほうが好きです。」</p> <p>4. 「なぜなら」の文型の導入</p> <p>食べ物の話から日本のラーメンに話を展開し、「私はラーメンを見てびっくりしました。なぜならスリランカにはないからです。皆さんはどう思いましたか？」</p> <p>5. 「~とっていました」の文型の導入。</p> <p>ワークシートを書かせた後に、「Aさんは日本の食べ物について何と言いましたか？」のように他人が言ったことを聞き、最初に「~と이었습니다」の形で提示した。</p>
<p>反省</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食べ物カードをみせて「日本の食べ物」を確認する。</li> </ul> <p>最初の15分間で、食べ物カードで「~好きですか？きれいですか？」との確認をした後、本題に入り、自分の国の食べ物について比較させ、自分の意見を言わせる予定だった。しかし学習者は思っていたほど日本の食べ物を知らなかったため、まず、食べ物について教えるべきであると考え、学習者に確認しながら日本の食べ物や野菜などについて聞いた。それにより習者も興味を持ってたくさん話をしたが、時間がなくなり、最後にあせってしまった。もう少し食べ物の話を減らすべきだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●文型の練習時間を増やすべきだった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●最初に簡単な練習をすませてから、ワークシートを配り、書かせるつもりだったが、時間を気にしてしまい、練習する前にワークシートを配ってしまった。そのため学習者が書くことに夢中になり、練習がよくできなかつた。学習者がワークシートを把握しておらず、乗り物と飲み物を間違えて書いたりしていたことに後で気付いた。まず、ワークシートの説明をするべきだった。</li> <li>● 他日に導入された比較（～のほうが～より～）や（～ですが～）などの表現も意識して使って練習するようにしたが、学習者にとっては負担が大きかったかもしれない。</li> </ul>
--	--

担当者	北村 祐人
目標	<p>自分の意見を述べる。</p> <p>相手の意見を聞く</p> <p>「（～さんは、）～といいました」</p>
構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2.ブレインストーミング（無人島に行かなければならないとき、何を持っていく必要があるか）</li> <li>3.ドリル練習 「（～さんは、）～といいました」</li> <li>4.応用練習</li> <li>5.発表</li> </ol> <p>ここでもブレインストーミングを行い、自分のことを話させるよう意図した。またドリル練習を行い、文型も補おうとした。また発表させることで、学習項目である「～さんは～といいました」の文型を生かそうとした。</p>
反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法的説明が不足していた。また同時に活動の説明も不足していた。そのため、学習者の発話が意図していたものにならず、活動自体が破綻した。全体的に指示と計画が甘かったと感じる。説明と指示をもっと検討し、分かりやすく効果的なものにする必要があった。</li> <li>・ 文法事項の理解が不足していた。上記で説明の不足は指摘したが、説明するための理解が自分の中で整理できていなかったと</li> </ul>

	<p>感じる。説明の時点でもその理解の不足は響いたし、学習者の発話に対しフィードバックを行うときにもそれは影響した。どう説明したら学習者が理解できるのかということだけではなく、理解できなかったときのこと（どう理解できないのか、どうフォローすればいいのか）についても十分想定しておくことの重要性を痛感した。</p> <p>前担当回でもそうであったが、できるだけ「自分のことを話す」ことを重視して授業計画を立てたが、文型や表現の正確さの意識に欠けていた。結果として学習者に授業を通し、何を学習したのかわからないといったような印象を与えてしまったのではないかと懸念される。</p>
--	---

<b>全体の反省</b>	
<p>全体を通し、応用や正確さなどそれぞれ欠けている点があった。今回はチームティーチングで授業を担当した。その際の連携や打ち合わせが不十分だったことが考えられる。互いに何を考え、何をやろうとしているのかもっと理解し、意見交換をすべきであった。</p>	